



2013年2月10日
-40号

発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子

<連絡先>
県議会共産党執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

日本共産党山形県委員会は、県に対し2013年度
県政運営に対する提案書を提出しました。(1月28日)

本間和也委員長、太田
としお副委員長(参院山
形選挙区予定候補)とと
もに、吉村美栄子知事に
提案書(8本柱)を手渡し、
懇談しました。

憲法9条はじめ重要 課題について懇談

本間委員長は、安倍自
公政権が憲法9条を変え
ようとしていることを指
摘し、党の見解を話し、
所見を聞いたのに対し、
吉村知事は、「国民の半
数が反対なのだから、国
民的議論をしたうえで慎
重に判断すべき」と述べ
ました。

私は、生活保護費の切
り下げや高校教育無償化
における所得制限導入な
ど、国の動向が県民生活
に影響を与えることが懸
念されることを述べ、
「知事の初心である県民
の命と暮らしを守る立場
を堅持してほしい」と強
調しました。
また、子ども医療費

県政を

暮らしの防波堤に

吉村知事に2013年度予算要望



の無料化を中学3年生ま
で拡充を、 いじめ・体

BSE規制緩和 食の安全どうなる

厚生環境
常任委員

罰の調査と対策の予算化
低料金で入所できる特
別養護老人ホームの増設
住宅リフォーム助成制
度の継続と改善、フル
規格新幹線は推進しない
ことなどを求めました。
吉村知事は、「子ども
医療費の助成は、本来国
策として全国一律になる
のが望ましい。少しずつ
進めていきたいとの思い
はある」と述べました。
いじめ・体罰の調査と
対策の予算化については
その方向で検討している
こと、住宅リフォーム助
成制度については、今後
も継続していくと答えま
した。

4日、厚生環境常任委
員会が開催され、私は米
国産牛肉の輸入規制緩和
について問いました。
日本は、人のクローン
フェルト・ヤコブ病の原
因となるBSE(牛海綿

状脳症)に感染した牛肉
の侵入を防ぐため、これ
まで米国産牛肉の輸入は
生後20カ月以下とする
とともに、特定危険部位の
除去を義務づけています。
国内では、政府の予算

措置で21カ月齢以上の牛
を検査するとともに、自
治体が自主的に全頭検査
を行っています。
私の質問に対
し、足達雅之・
食品安全衛生課
長は、2月から
輸入できる対象について、
これまでの20カ月齢以
下から30カ月齢以下にな
ること、特定危険部位
の除去についても緩和さ
れたこと、それに伴い
国内措置も4月からBSE
E検査対象が20カ月齢超
から30カ月齢超になるこ
となどについて答えまし
た。



県の自主検査は

私は、「現在20カ月齢
以下について、県は自主
検査している。新年度は
どう対応するのか」と質
問。足達課長は、「国は
引き続きBSE対策につ
いて検討中であり、当面
はこれまで通り財源は確
保される方向で、県単独
分も従来通り予算化して
自主検査を継続する」と

答えました。
今後の国の動向につい
ての質問に対し、足達課
長は「科学的には全頭検
査は必要ないとの考えだ。
しかし山形県は農業県で
もあり、他県の動向も見
ながら今後の対応を検討
していく」と答えました。

関係者の声を よく聞くべきだ

私は、消費者の方々か
ら「輸入規制緩和して大
丈夫なのか」「アメリカ
では全頭検査もトレーサ
ビリティもしていない」
の声があることを発言。
多くの消費者が知らされ
ないままに規制緩和が進
められていることを指摘
し、「生産者・消費者を含
めた関係者の声をよく聞
いてほしい」と要望しま
した。

また、TPP交渉参加
の先決条件として、自動
車、保険、牛肉の規制緩
和が狙われており、食の
安全や日本の主権に関わ
る重大な問題だと強調し
ました。

福祉灯油の 実施を

私は、「最近、灯油の値上
がり激しい。低所得者へ
の福祉灯油の実施を求め
る声が強くなっている。村
山市などで実施している
が、県としても実施でき
ないのか」と質しました。

安中健・健康福祉企画課
長は、「今年1月の灯油18リ
あたり配達価格は1770円
となっているが、過去に
実施した水準には至って
いない。今後も注視して
いく」との答弁にとどま
りました。

社会を変える女性の力



毎年注目さ
れている、各
国の男女間格
差を示す「ジエ
ンダー・ギャッ
プ指数」で、
日本は昨年、
世界135カ
国中、101
位でした。前
年(98位)より
さらにランク
を下げ、政治・
経済参加の遅
れが目立つと
指摘されてい
ます。

おいて、家事・育児・介
護など、まだまだ多く
は、女性の肩にのしか
かっているのではない
でしょうか。もっともつ
と、女性の様々な分野
での参加、社会を変え
る力の発揮が必要とさ
れていると痛
感します。
その点から
も、福島のお母さんた
ちをはじめとして、「原
発なくそう」と声をあ
げ、若い女性の関心や
運動が広がっているこ
とには、おおいに励ま
されます。
私も、様々な分野の
女性たちと共
有し、ともに前進してい
きたいと思っています。